



妙の光

通刊72号 復刊52号
2005年12月16日(季刊)
角田山妙光寺 発行
新潟市角田浜1056
〒953-0011
TEL 0256-77-2025

角田浜は新潟県内でも佐渡の小木と並んで雪の少ない所として知られている。日本海を北上する対馬暖流が佐渡島にぶつかって、沿岸に近づく所が角田浜というせいだ、海水温が高く気温も高くなるらしい。

何気なく草履で出かけたら近くの町では積雪があつて、車から降りられなかつた。そんなことが冬の始まりによくある。移植に失敗して枯らしてしまつたが、以前は境内にミカンの大きな木があつて、正月にたくさんのが実を付けた。こうした気候が角田山に豊富な山野草を育んだとも言われている。

いい条件で雪景色を撮影できる日はひと冬にわずかしかない。降り積もつてもすぐにベチャベチャに解けてしまふからだ。まして境内を除雪することのない年が最近ことに増えている。

雪景色

アメリカ講演の旅

小川英爾

アメリカ人の大学院生で現代日本仏教を研究するマーク・ロウさんのお世話で、大学で講演する機会をいたしました。自分の勉強と住職三十年の記念として、娘を伴ない二週間初めて旅したアメリカをご報告します。

プリンストン大学

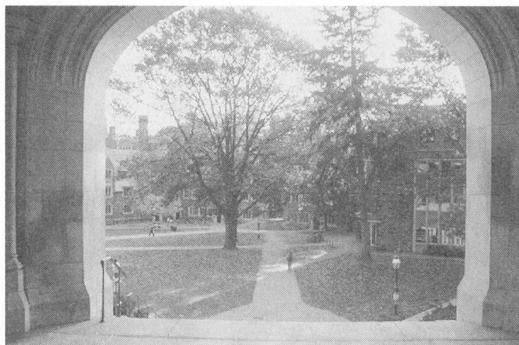
ニューヨークの空港から迎えの車は二時間弱でプリンストンの町に着いた。緑深い大学の町といわれるだけあって、とても落ち着いた森の中に町と大学がある感じ。しかも深まりゆく秋を実感させた。大学のキャンパスは五キロ四方と広大で、そこに大学院を含めた学



プリンストン大学キャンパス

生が六千人学んでいる。アメリカでも名門校として知られる私立大学で、AINシユタインのいた大学としても有名だ。またアメリカの独立戦争の際イギリス軍を破つて一時新アメリカの首都となつた町で、当時国会が開かれた建物は大学で今も使っている。

着いた翌日は時差ぼけに配慮いただき、ゆっくりと図書館を案内してもらつたり、招いてくれた宗教学部でジャッキー先生の仏教学の講義を受け（英語でさっぱりわからなかつたが）、先生と教員食堂で昼食をご馳走になりながら話したりして過ごした。女性のジャッキー先生は法華経の研究者として知られ、きれいな日本語を話される。キャンパスの所々に私の講演を知らせる小さなポスターが張



プリンストン大学キャンパス内の学生寮

つてあつた。

三日目の夕方四時半、教室とはいっても歴史を感じさせるとても重厚な雰囲気の部屋での講演。集まつてきたのは数人の教授と大学院生が二十数人で、日本人も五、六人いる。関心はあつたが日本語が分からないので諦めた学生もいたと後で聞いた。講演は通訳なしの日本語でやつた。こうした特別講演は世界的な有名人から私のような一般人まで、よくあるという。それにしても暖かいながらもピリっとした雰囲気に緊張させられた。

時間は五十分と短いようだが、これが基本でジャッキー先生の講義もそうだつた。人間の緊張はそう長くは続かないから集中すればこれで十分だという。さすが合理主義の国アメリカ、話す側も要点を整理するから確かにちょうどいい。

内容はまず大学で研究する佛教ではなく日本の寺で行われている現場の佛教を、江戸時代から現代まで時代背景と合わせて整理する。そのうえで家族の形が変化した中で



プリンストン大学、重厚な感じの講義室が講演会場



講演風景(プリンストン大学)

の現代人の宗教観と伝統佛教のズレを説明し、今後の見通しを語つた。質問も活発に出た。東大から大学院に留学中という日本人女性は「明治以降の宗教研究の方法に問題があつた。話を聞いて仏教の未来に希望が持てて研究者として私も頑張りたい」。中国人研究生は「日本の佛教系大学で教えていたことがあるが、学生が全然勉強しない。個人主体の佛教というがその教えの中心を作らないと難しいのではないか」。ジャッキー先生からは「これまで現場の佛教は研究対象ではなかつた。宗派の教えは大切だと思うが、今後宗派そのものはどうなつて行くと考えるか」と問われた。その他も的確な質問ばかりだつたが、実は興奮していてどう答えたか覚えていない。

終了後、洋食は苦手という私に気を使つて、日本食の居酒屋でレセプションが開かれた。予定を越す参加者が狭い店で席を移りながら話しかけてくれ、楽しかった。ことに言語学の権威と言われる牧野先生はご夫婦で出席され、「大変興味深くて楽しい内容だった。こ

の現代人の宗教観と伝統佛教のズレを説明し、今後の見通しを語つた。質問も活発に出た。東大から大学院に留学中という日本人女性は「明治以降の宗教研究の方法に問題があつた。話を聞いて仏教の未来に希望が持てて研究者として私も頑張りたい」。中国人研究生は「日本の佛教系大学で教えていたことがあるが、学生が全然勉強しない。個人主体の佛教というがその教えの中心を作らないと難しいのではないか」。ジャッキー先生からは「これまで現場の佛教は研究対象ではなかつた。宗派の教えは大切だと思うが、今後宗派そのものはどうなつて行くと考えるか」と問われた。その他も的確な質問ばかりだつたが、実は興奮していてどう答えたか覚えていない。

れは日本よりアメリカの方が理解されやすいし関心も高いはずだから、他の大学でももつとやつたらいいですよ」と仰ってくださり、本当に嬉しかった。設営してくれたマークさんが喜んでくれたのが、責任を果たした安堵感とともに何よりの喜びでもあった。

ニューヨーク

翌日、興奮冷めやらぬなかでマークさんの家族と朝食をご一緒にし、駅まで送つてもらってニューヨークに向かった。電車で一時間、終点のペンステーションで地下から地上に出たらマンハッタンのど真ん中。首を九十度曲げないと先っぽが見えない高層ビル、路上には人が溢れ車道は交通渋滞がすごい。なんとかタクシーで予約のホテルにたどり着いた。早速地図を片手に娘と二人で街を散策。日本航空や日系の旅行社を訪ねて観光資料を入手し、ツアーホテルの予約を入れる。

翌日から二日間、日本語観光ツアーでエンパイアーステートビルディング、自由の女神像、国連ビル等々ニューヨーク名所を効率よく回



アメリカ ニューヨーク

り、夜はハーレムで本場のジャズを聴いた。娘の希望のブロードウェイミュージカルは、退役軍人の記念日という連休でチケットが買えず断念。印象深いのはテロで破壊された貿易センター跡地。影響を受けた周囲のビルも解体されていたが、一棟だけ上から黒いシートを掛けたビルの姿が異様に見えた。笑いながら写真を撮る観光客、涙を流してたたずむ女性等々だが、私は胸が詰まつてカメラを向ける気持ちになれず冥福を祈るばかりだつた。

また幸運にも日曜日と重なり、ハーレムの教会で行われる日曜礼拝でのゴスペルを聴けた。黒人による神を讃えるコーラスのこととで、二階席まで人で一杯のモダンな大きな教会で一部の席を観光客に開放している。牧師の説教もりズムがあり、それに応える信者との掛け合いは、ひと昔前の坊さんの説教と応える信者の掛け合いを思い起こさせた。こちらがずっと力が入つてゐるが。なにしろ興奮した信者が席を離れて踊りだしたりしている。ときには気絶したり亡くなる人もあるて、看護士が待機している教会もあるそうだ。改めて黒人のエネルギーを感じた。

数ある美術館、博物館のなかでメトロポリタン美術館を見学した。全部見ると二日かかるというだけあって広い。見てもわからない西洋をあきらめ、日本と東洋の仏教美術を主に見て歩いたが、最高のものが分かり易く展示しており感心することしかり。最後に高層

ビル屋上から眺めるマンハッタンの夜景を堪能して、

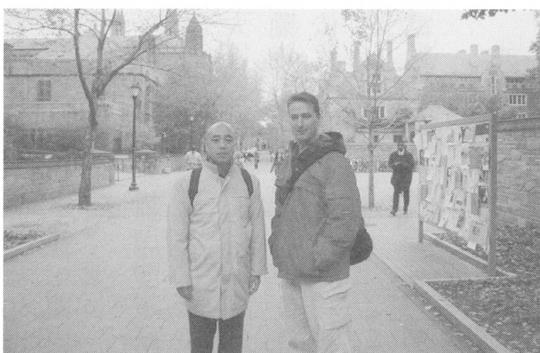
実質丸二日間の観光を終えた。そこそこの古さと新しさが見事にセンス良く同居した大都市で、しかしそれは高額所得者が集まつたお金のなせる業。確かに世界中から集まる人と金はものすごいエネルギーを生み出す街ニューヨークだと感じた。

ニューヨーク最終日は、日帰りで安穏会員の息子さんのKさんを訪ねた。この夏横浜で入院中の父親に代わって妙光寺に母親の墓参りしたKさんと、訪問を約束していたのだ。在米二十五年以上というKさんは、喧騒のニューヨークからニューポルツという町に越したばかり。中央駅から電車で二時間、五大湖から流れ出るハドソン川に沿つて北に向かう。自然が豊かで静かな町だが、週末はニューヨークから自然を求めて来れる人で賑わうという。ここで音楽関係と翻訳の仕事をしているKさんと、その家族に迎えていただいた。

ブラジル人の奥さんは大自然のエネルギーで魂を高めて、子供や心の疲れた人たちの心を癒す仕事をしているという。興味深い話に盛り上がった。そして私もお会いしたKさんの亡くなつた母親の思い出話を、アメリカでしているのも不思議な感覚だつた。あつとう間に時間が過ぎて日が傾き始め、急いで近くの山岳自然公園までドライブ、インディアンの世界だったといいう岩山と森を高台から眺めてその広さに圧倒された。夕方モダンダンスの練習に行くというKさんと一緒に

ニューヨークに戻った。

エール大学



エール大学のキャンパスでマークさんと

マークさんと中央駅で待ち合わせて、二番目の講演先であるエール大学に向かう。今度は海沿いに北へ二時間、電車はニューヘブンの町に着いた。宗教学部の篠原先生が迎えてくださり、町を案内いただきながら大学の用意してくれたホテルに入る。プリンストンよりは大学も町も一回り大きいが地場産業が廃れて一時は町が荒廃し、いま大学も応援して対応しているところだという。何千人という学生がいても四年間全寮制だから町に金が落ちないし、大学からは税収もないから確かに町は大変だ。この大学も有名校なのだが色々あるもんだと思った次第。

色々といえばまず大学事務所に案内されて、五枚ほどの書類を書かされた。大学からの謝礼を非課税にする国の書類だそうで、篠原先生には「大した謝礼でもないのに面倒なことで申し訳ない」と盛んに謝られてこちら

が恐縮。さらに「この大学は官僚的で居心地がよくな
いんですよ」と、事務員に通じないのをいいことに笑
いながら言つてくださつた。さらに先生には時間まで
貴重本だけを集めた図書館を案内いただく。世界中で
二十冊しか現存しない世界最初の印刷本というグーテ
ンベルグの聖書があつた。

私と同じ時間にやはり日本人の講演が別にあつて、
出席人数が心配とマークさんが言つていた。でも東ア
ジア研究学部の新しい教室には二十人以上が集まり、
さらに遅れて駆け込む人もいてまずはひと安心。プリ
ンストン大のように家庭的な雰囲気はなかつたが皆熱
心に聞いてくれて、六十分弱で終えた。質問の傾向は

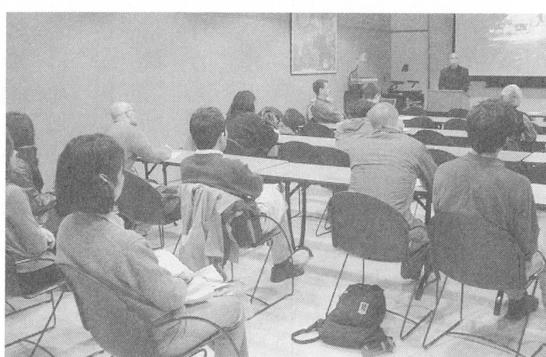
やや違つて「仏教はお寺
でなくとも知ることは出
来るではないか」とか、「
なぜお経の現代語訳をし
てもっと親しめるようにな
しないか」といった厳し
い指摘があつた。一方で
実家が山梨県で長男だと
いう留学生は「大変面白
かつた。家の墓を守れと
親に言われるが、その背
景が良く分かつた」。また
幼い子供を連れた日本人
女性は「子供がぐずつてゆつくり聞けなかつたので、
不明なところを後で聞いてもいいでしようか」と連絡
先を尋ねてきた。

町のタイ料理店で篠原先生夫妻と、以前京都大に留
学し黄檗宗を研究している関西弁ペラペラで、吉本が
大好きというおしゃべりなアメリカ人大学院生らでご
馳走になつた。篠原先生の奥様はアメリカ人でインド
仏教の研究者として有名とのことだが、日本語で冗談
をいう気さくな方。ここでも様々な日本仏教の課題が
話題になり、大いに刺激をいただいた。

西海岸へ

翌朝ニューヘブンの町を発ち、ニューヨークの空港
から西海岸のサンディエゴに飛んだ。所要三時間と思
つっていたのが、さらに三時
間の時差があつてなんと六
時間もかかつた。ここに暮
らす学生時代の友人宅に世
話になり、メキシコに近く
て夏のよう暑い気候のな
かをのんびり観光を楽しん
だ。後この友人の運転する
車で三時間、ロスアンゼル
スに送つてもらう。

尋ねた先が日蓮宗米国別



講演風景(エール大学)

講演風景(エール大学)



ロスアンゼルに向かうフリーウェーは片側五車線

院。お参りさせていただきてご住職の歓待を受けた。

国の途に着いた。

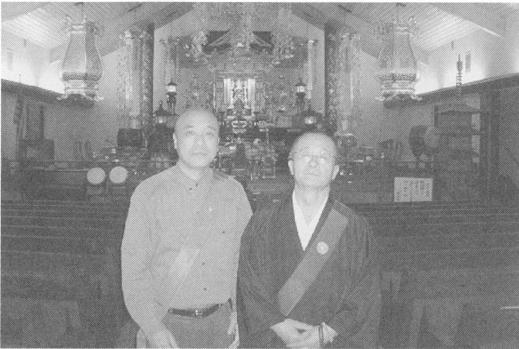
創立九十年目という歴史から始まり、現在の活動状況を伺う。なんとこの別院創立の基礎を作ったのが妙

光寺の四十六代目住職の旭日苗師だつたことがわかり、双方でびっくり。私が忘れていたのだが、師は旧巻町仁箇村の内藤家から弟子に上がり、後に妙光寺住職を経て日蓮宗管長にまでなつた。傑物として知られ、明治末から大正の時代に韓国、中国、インドにも足跡を遺された。依頼を受け弟子をロスアンゼルスに派遣してこの別院の基を作り、大正二年、創立の翌月に高齢ながら万国仏教大会出席を兼ねて訪問した。その際の記念写真が昨年の創立九十周年記念誌に載せられていた。このときアメリカ人相手に日本語で説法をしたといふ、師の後からの話の記録が妙光寺にあることを思い出した。軽妙洒脱な人柄だったと伝わっている。

別院を辞してここロスで女優を目指す姪（私の兄の三女）と合流、友人の息子を交えて夕食の後、友人と別れて姪のマンションへ。翌日姪の案内で観光して、翌々日の朝帰

まとめ

合理的、多い人口、広大な土地と大自然。明るくこだわりのない人柄、居住地や仕事先に固執しない柔軟性。地震がないというがあまりに巨大なニューヨークの高層ビル群はアメリカでも特殊で一つの独立国のようにも悪くも人を動かす。一方で貧富の格差、依然残る人種差別、個人的にはねたみそねみ足の引っ張り合いも当然あるという。極端な車社会、紙ナップキンやプラスチック類の使用量の多さと一緒にゴミ処理。ほとんど雨の降らないカリフォルニアでなぜソーラーエネルギーをつかわないのか？ 地球温暖化現象を認めない学者もいるとか。雑多なアメリカ印象だ。



アメリカ講演 ロスアンゼルス日蓮宗米国別院にて

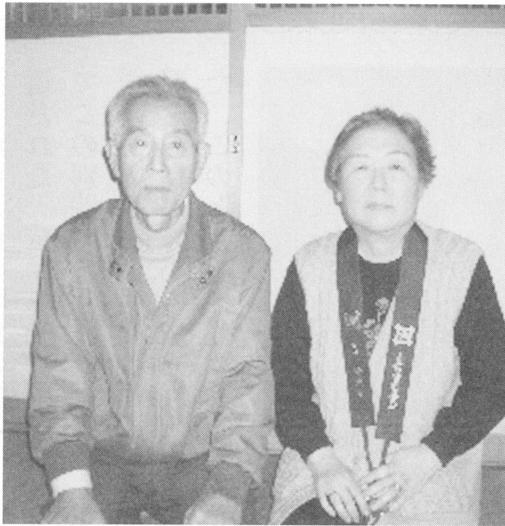
別院を辞してここロスで女優を目指す姪（私の兄の三女）と合流、友人の息子を交えて夕食の後、友人と別れて姪のマンションへ。翌日姪の案内で観光して、翌々日の朝帰



遭遇したパレードでのお婆ちゃんのチアガール

お互いさま

新潟市曾根

石田平脩治さん（七十七才）
子さん（七十二才）

脩子さんはこの秋の授戒会で戒名を受けた。「嬉しさもさることながら、戴いた戒名に顔も知らない実父の名前の一文字があつて驚きました。私は貧しいお寺の十一番目に生まれて、養女に出されたんです。実父は婿で、その後妻を作つて家を出たそうで、着物を

持つて養女に出した私を訪ねては、七歳まで抱いて寝てくれたと聞かされました。私は覚えがないんです。晩年は姿にも捨てられ寂しい最期だつたと聞きましたが、とうとう会いには行けませんでした。養父母もいい人でしたが、今の私には実父の思いが伝わつて来るようドキッとしたんです」。

その脩子さんは平成元年に頸椎の病気になつて以来、家の中での怪我も続いて腰や足を骨折、身体障害者の認定を受けている。不自由なその日常を支えてきたのが平治さんだ。毎日のスーパーへの買い物から炊事、洗濯、掃除。そして週四日ある脩子さんのリハビリとデイサービスの送迎をこなす。さら内科と整形外科への送迎も。

「俺はあんたの世話をあるから先に

は死ねない」「私に先死ねと?」「俺が先に逝つたら誰があんたの世話をするんだよ、子供だつてあてにできないよ」「そうよね、だから私戒名をと思つたのよ」。ポンポン言い合えるのも長年の信頼か。平治さんは公務員の管理職として人事管理に疲れはて早期退職。その後病院の夜警から公衆電話ボックスの清掃係等々を勤めてきた。「知り合いに会うのが恥ずかしくて最初は隠れましたよ。でも考え方直してこちらから声を掛けるようになることができました」。「そうよね、大変だつたわよね。でももうちよつと私に優しい言葉を掛けてくれてもよかつたんじゃない?」「それは反省して今頑張つてるじゃないか」。

「確かに晩酌も控えて、後片付けと明日の用意まで。それに毎朝何があつてもお仏壇のお勤めは欠かさないものね。感心します」「今は代わつてもらつたけどお寺のお手伝いも二十年やらせてもらつたしなあ」。介護の合間を見て、ひとり静かなお寺に参る平治さんの姿が思い出された。

NHKテレビで放送 他

台所改修工事

一部の地域では趣意書が先のお届けになりましたが、築二十五年を経て痛みの激しい台所の改修工事を計画しました。この秋のお会式に出席された八十人分のお斎も、西山本地区から四人

のお手伝いをいただいて全部手作りで用意し、「こんな美味しいお弁当久しく食べたことがない」とまで言つていただくほど好評でした。

これほど活躍してきた台所だけに床、床下、設備、棚の建具等々が限界まで痛みました。客殿の大屋根の雨水と冬場の雪を一挙に受ける所でもあり、そのうえ勾配がゆるいので一部で雨漏りもあります。床下の湿気対策も含めて改修する計画です。

詳しくは別紙の趣意書にあるとおり

です。お願いの時期が暮れになつてしまい恐縮ですが、出費が重なり大変という方には遅れても構いません。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

NHK教育テレビで放送

全国にお寺は七万五千以上ありますが、大都市の一部を除いて今その運営は厳しいものがあります。そのようななかで「お寺がもつと元気を出して開かれた場にしていくことで、この閉塞した社会を変えることができる」。こう主張する若手の文化人類学者として活躍する、上田紀行東京工大助教授が『がんばれ仏教』(日本放送出版協会)という本を出し、話題になっています。この本をNHKがテレビ番組化して全国放送することになり、妙光寺もそ



客殿での対談を収録

の一例として取り上げられたのです。十月のお会式と授戒会を取材し、さらに十一月二十三日に上田先生が妙光寺を訪ねて住職と対談、檀信徒のインタビューもするなど丸一日かけて収録しました。

一時間半もの放送時間で、取り上げられた寺は妙光寺を含めて数箇所ですから、出番は多いと思います。どうぞご覧ください。

放送は一月十四日（土）夜十時より
一時三十分の予定。NHK教育テレビ
のETV特集『お寺ルネサンスの時代
を拓く』という番組名です。

登録文化財に

以前お伝えしましたが、昨年秋に修復工事を終えた三重塔の「国の登録有形文化財」を文化庁に申請していましたところ、このたび決定した旨の発表がありました。文化財建築に携わる方の勧めで、山門と鐘楼（鐘撞き堂）も併せて三件を申請しましたがその全てが一度に国の有形文化財として登録されました。今回は新潟県内から妙光寺の三件だけだったそうで、地元の新聞各紙とNHKニュースで大きく報道されました。

「登録有形文化財」とは国宝や重要な文化財とは違い、国が文化財としての価値が高いと認めて登録台帳に記載したというものです。補助金等はなく同時に厳しい規制もありませんが、個々で大切にして欲しいという新しい制度

です。新潟県内では一九八件目とのことです。

山門は文化十一（一八一四）年に地元角田浜の大工が建築した記録があり、江戸時代後期の造形がうかがえ、

鐘楼は明治中期の作で創建当時の姿がよく保存されている。三重塔を含めて妙光寺の歴史的景観に寄与している、というのが登録の理由だそうです。

鐘楼は昭和五十一年に、山門は同六

住職後継者を公募します

妙光寺ではこれまで血縁による世襲は五十三代目の現住職が初めてです。先代は先々代の養子で、それ以前は住職が結婚しませんからずつと血縁のない弟子が後継ぎでした。浄土真宗系以外の寺は全てそうで、法華宗という宗派ではつい最近まで住職の転勤が頻繁に行われていました。寺の世襲化は昔のように弟子になる人が極端に少なくなったのが主な理由です。

現住職の四人の娘は皆自分の進路に別の希望があり、弟子の鎌田は住職になる意思はないとのことで、それなら外部から後継住職の候補を求め、早めに育成を始めようというものです。ことに永代供養を謳う安穩廟への社会的責任と、妙光寺の永続性を確保する意



雪の日の山門と三重塔

十年頃に檀信徒の皆さんのご尽力でそれが一部補修しました。こうしたこれまでの労苦が認められたことを感謝と共に喜びたいと思います。ありがとうございました。

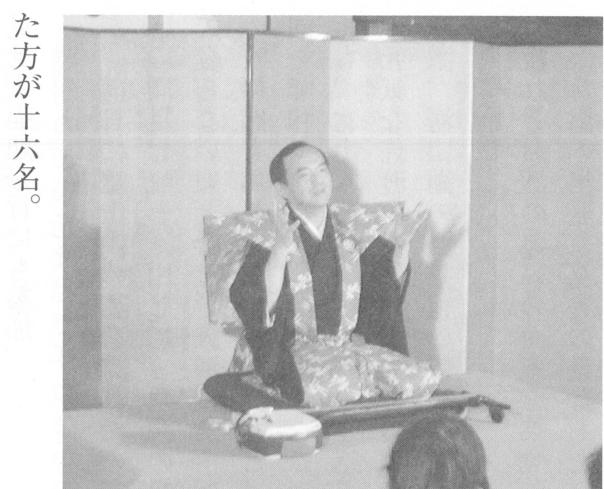
味でも重要なこととして、早くから役員会議で論議しこのたび実施に踏み切ることになった次第です。

宗門にも人材はいますが、とかく先入観や固定観念に囚われがちな傾向が見られます。そこでひろく一般から公募しそれまでの経験を生かした視野の広い住職として、妙光寺の歴史を守り、檀信徒、安穏会員ひとり一人を大切にしていくて欲しいと考えています。門戸を広げて有為な人材を迎え、皆さんで育てていこうというものです。（募集要項の要旨は16ページに掲載しました）

資格を得て住職候補になるまでには少なくとも五年はかかるでしょう。皆さんのご協力をお願いします。

お会式と授戒会

日蓮聖人の七二四回忌にあたるご命日のお会式（えしき）法要と、皆さんに戒名をお授けする授戒会を十月二十九日に営みました。八十名の方の出席をいただき、そのうち授戒を受けられ



お会式での文楽三味線

も受け取られました。

当番手作りのお弁当をいただき、午後からは鈴木是妙法尼の法話、さらに鶴澤浅造さんの義太夫三味線を楽しみ三時に散会しました。

授戒者Aさんに同行した娘さんからのお手紙

「これで安心して生きていける」と母もとても喜んでおりました。母が父のもとへ行く日まで日々穏やかに生活できることが私の喜びです。御前様には深く感謝申し上げます。

幼稚園、小学校くらいの子供に人格形成のうえで宗教教育はとても大切なことだと考えております。鈴木是妙法尼のお話を伺って若い母親にも影響を与え、人生を変えることがあるのだと感動致しました。

身延山団体参拝賑やかに

十月二日から二泊三日、總本山身延山久遠寺と七面山への団体参拝旅行を行いました。大型デラックスバス一台に三十九名、天候にも恵まれてゆとり

の行程でした。

早朝各地からバスに乗車して午後二時前、暑いくらい晴天の身延に到着。

本堂はじめ広い堂内を案内されて順次参拝。さらに水鳴楼で法話を聞いて書院でお茶をいただき、下山して日蓮聖院

人のお墓へ。宿坊に入ったころは秋の早い日暮れが迫っていた。

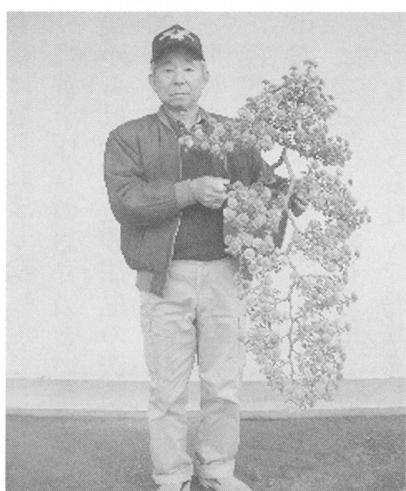
翌朝六時の朝勤に参列するべく五時半に宿坊を出発。大本堂での百人近い僧侶の読経に感激し、さらに全てのお勤めに参列して宿坊で朝食。天候が悪化しないことを願いつつ、七面山登詣組は十時に「お万様の滝登山口」を出発。どうにか雨具を着用することなく三時間前後で全員無事登頂。入浴、夕食後に夜の法要に参列。さらに疲れも見せず唱題修行にも参加。

翌朝のご来光は雲で拝めなかつたが、前日に富士山の姿を見れたので一応の満足。無事下山して、角瀬の旅館で登らない組と合流。入浴後無事下山の安堵感もあり、すっかり打ちとけた同士で和やかな懇親会。登らなかつた組も、北山本門寺参拝で九十才過ぎてお元気な佐渡生まれの貫主様の歓待に感激、河口湖の温泉宿の快適さにすっかりご満悦。

疲れとお酒の勢いの面々を乗せてバスは新潟へ出発。夕食の長野あたりか



身延山・七面山参拝の旅 於 久遠寺 2005.10.2



内藤さん

菊花奉納

すっかり恒例になつた秋の菊花の展示ですが、今年も葉萱場（旧巻町）の内藤清さんが丹精込めた三鉢をお持ちくださいました。玄関受付のカウンターに一月余り飾りましたが、ことに県外からの方々たちは「これが菊の花?、すごいですね」と声をいただきます。確かにまるで沢山の花をつけた一本の

ら激しい雨。それが巻に着くころから雨も止み、濡れることなくそれぞれに沢山のお土産を抱えて元気に帰宅。口々に「ぜひまた行きたい」との言葉が喜びを表していた。



松本ヒロのトークショーに集まった人たち

この秋は楽しい催しが二回もありました。一回目は安穏会員のKさんがご主人の一周年忌の前夜、お世話をなつた方々への感謝の気持ちとして友人でもある松本ヒロさんのトークショーを開いたのです。松本さんはテレビ出演も

秋のイベント

木のように立つたり、枝垂れている形には驚かされます。



山本公成・中野亘コンサート

Kさんは親子劇場といつて、会員制で親子が演劇や音楽に接する機会を増やす会の事務局長として活躍されてます。当日は本堂にご主人の遺影と遺骨を飾り、集まつた人たちがお元気だった頃を偲びました。その翌日親族で一

多いタレントで、世相を風刺した軽妙なトークとのまねで本堂に集まつた百人近い人たちを沸かせて笑いに包まれました。

Kさんは親子劇場といつて、会員制で親子が演劇や音楽に接する機会を増やす会の事務局長として活躍されてます。当日は本堂にご主人の遺影と遺骨を飾り、集まつた人たちがお元気だった頃を偲びました。その翌日親族で一

周忌の法要を営み、埋葬には多くの友人が立ち会いました。

二回目はアルトサックス奏者の山本公成さんと、陶芸家で土笛奏者でもある中野亘さんのコンサート。世界各地の笛を並べて二人が即興で掛け合いながら吹く様々な音は、外で鳴く鈴虫の音色とも重なつて別世界にいるかのような雰囲気を作り出しました。三十人あまりと聴衆が少なかつた分、ゆったりと聞けてとても贅沢な時間でした。

山本さんもヨーロッパなどで活躍される演奏家で、NHKのFM放送にも生出演されています。本堂での演奏がとてもいい音で録音され、CDとして売り出したいほどとのこと。中野亘さんのご縁で「仏様に奉納するつもりで演奏させていただきました」とはご本人の言葉でした。

TOTO新潟で講演します

TOTO—東陶機器株—新潟支店主催の第十七回市民公開講座で住職が講演します。「自分らしいお葬式とお墓

を考える」のテーマで、来年三月十一

日（土）午後一時三十分～二時三十分。

誰でも無料ですが予約制です。TOT

Oショールーム（新潟市本馬越二一八

一一二、電話025-241-225
8）。お問い合わせも直接どうぞ。

ミニ修行体験のご案内

妙光寺に泊まりたい。お経を覚えて一緒に唱えたい。仏教や日蓮宗のことについて少しは知りたい。住職とゆっくり話したい、相談したい。でも交通不便でなかなかおつくうだ。そんな方のために、今年の春先に開催して好評でしたミニ修行を来年も開催します。

決して厳しいものではなく、参加さ

れた方には新鮮な感動をもつて過ごしていただきました。全国的にもチ修行といつて、特に若い女性にブームだそうです。ひとりでもご夫婦でも大丈夫です。ご高齢、お体の状態は考慮します。ぜひご参加ください。



参籠修行のご案内

第三回

「一泊二日初めての参籠修行」

日程・一日目

参籠（さんろう）とはお寺に修行の目的で宿泊することをいいます。

趣旨・妙光寺に宿泊してお経や作法の基本を練習し、住職や参加者とともに語り合い、写経を体験して国登録有形文化財となつた三重塔に納経します。

* 詳細は参加者に直接ご案内します。

期日・三月十四、五日（火、水）

・五月十三、四日（土、日）予定

対象・妙光寺の檀信徒、安穩会員な

らどなたでも。

定員・十五名

「二回目の参籠修行」

こちらは「初めての修行」を終えた方のための、より上のコースです。日程は同じですが、内容がお経練習と、内容の講義、作務（体を動かす作業）が中心になります。費用一万円（予定）。期日三月十八、九日（土、日）

費用・一人一万三千円（含一泊三食、写経用品）
申込・氏名、住所、年齢を妙光寺まで。



朝のお勤め、写経、まとめ練習、法話、納経法要、昼食後解散。

二日目

お経と作法の実習、他。

希望者には午後個別相談



檀徒でなければ

• • • • •

親族が泊まつて翌々
日に葬儀となつた次
第です。広いお寺は
寒い季節決して快適
とは言えず、看病疲

もありました。このときは冷たいようですが「皆さんで相談して決まってからご連絡ください」とお応えするしかありませんでした。

十一月のある朝の電話。一夫が先ほど息を引取りいま病院にいます。以前『妙の光』にあつた『ある家族葬』を読んだ本人も、葬儀を妙光寺さんでと

の家族には辛いと思われます。(こ
んなときに家族だけで気兼ねなく過ご
せる、小さな離れ式の建物でもあつた
らしいと思うのですが)。

事前によく話し合ひ、ご相談ください。

たらお訪ねしてご相談するつもりでいたのですが、急変して間に合いませんでした。葬儀社さんに迎えてもらって、すぐに伺つてもいいでしょうか」。

急な話でしかもその日お寺では葬儀の最中でした。一端自宅に戻つていただくことをお話ししましたが、自宅が遠方のため再度お通夜でお寺に移動するのは、物理的にも経費的にも大変です。

場の一室を借りて一晩過ごすことにし
て病院から斎場に搬送となりました。
駅にも近く、向かいにスーパーもある
所で何かと便利です。

則として檀徒でなければ葬儀はお受けしない”としてあるのです。

新潟市の佐藤さんから「お花立ての購入代金に充ててください」とご寄付いただきました。感謝申し上げ、ご報告させていただきます。

後継住職募集要項

角田山妙光寺

募集職種	住職候補生（若干名）
募集背景	(1)後継住職を一般的に広く公募し、世襲の域を超えて有能な人材を採用する。 (2)檀信徒・安穏会員からの信頼感の継承および安穏廟の永続性を確保するために、伝統的価値感にとらわれがちな教団内部ではなく、先入感のない外部からの候補者を採用して、妙光寺独自で育成を行う。
募集時期 および期間	(1)平成18年1月中旬より募集を開始します。 (2)面接は随時行い、採用最終決定時期は平成18年5月末の予定です。
応募資格	原則として25才～30才ぐらいまでの大卒以上で社会人経験が必要。 性別、国籍および大学での専攻は問わない。
雇用内容	(1)研修生「インターンシップ」(雇用契約なし) 3ヶ月間従事（原則は住み込み） (2)候補生（雇用契約あり） 研修終了後、3年間従事（原則は住み込み）
選考方法	「書類選考」履歴書、職務経歴書および論文提出（詳細は応募先を参照） 書類選考結果は郵便および電話にて連絡いたします。 「一次面接」寺務担当者が面接　面接場所：角田山妙光寺 ↓ 「二次面接」檀信徒役員が面接　面接場所：角田山妙光寺 ↓ 「最終面接」住職、寺庭夫人面接　面接場所：角田山妙光寺 (各面接の結果は郵便および電話にて連絡いたします。) 「最終決定」健康診断書、卒業証明書を提出後決定いたします。 注)採用時には宗教法人日蓮宗妙光寺の寺院規則を遵守する旨の誓約書に署名していただきます。
求める人物像	(1)生きる事にまじめで、最後まで逃げずにやり抜く意欲があること (2)どういう人にも分け隔てなく接することができる人 (3)やらされて仕事をするのではなく、将来、責任を持って寺院運営を行う特性をもっていること (4)仏教（日蓮宗）を真摯に学ぶ意欲のある人 (5)誠意を持って人の話しを最後まで聞けること
応募方法	履歴書、職務経歴書および論文を下記の応募先まで郵送にてお送りください。 論文のテーマ「私が妙光寺の住職になったら」（800字程度で様式自由）
応募先	応募先：〒953-0011 新潟県新潟市角田浜1056番地 角田山妙光寺 寺務担当宛
問合せ先	TEL 0256-77-2025／FAX 0256-77-2163 E-mail:jimu@myoukouji.or.jp 角田山妙光寺 寺務担当まで

師走雜感

小川なぎさ



今東京にいます。フェスティバル安穏の東京スタッフ会議と忘年会を、妙光寺の東京事務所でやるので住職と出かけてきました。最近は浪人している娘も寺にいますので、実家の母に留守番を頼めば数日なら一人で出掛けることも出来るようになりました。

上京する前の数日、新潟ではめずらしく穏やかな日が続いたので、銀杏を洗つて乾かす作業を集中してやりました。今年は四年ぶりの大豊作で、出来上がった実はおそらく六十キロはあるでしょう。その作業のせいで銀杏中毒のようになってしまい、遅れたこの原稿をここで書いています。

娘のパソコンで書いて、そのまま新潟の印刷会社に送るのですが本当に便利な世の中ですね。住職は雑誌の原稿

の直しをアメリカでやり、日本の出版社に送ったとか。

その住職はさつき帰りましたが、私は明日一日用事を足してから戻ります。慌しい師走ですが数日でも少し気分転換ができましたので、戻つてお正月の準備も万端に整えるつもりです。

大晦日には袋にたっぷりと銀杏を入れて、差し上げられると思います。なにせ本堂のまん前で一年間お経を聞いて育つたイチヨウの実なので、美味しい上にご利益もあることでしょう。またたくじ引きの景品もいつもの縁起物のほかに、住職のアメリカ土産、私の東京土産（笑）も少しありますので、除夜の鐘つきにどうぞおいで下さいませ。

本当にお世話になりました。そして来年もどうぞよろしくお願ひします。

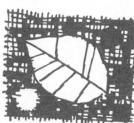
気も良くて体が楽です。いつもの生活から別な場所に来てみると精神的にリフレッシュ出来るし、ものの考え方も前向きになるようです。だからみんな旅に出るのでしょうか。今日はこれから夕食の支度をして、女子大の学食で大盛り！というくいしんぼうの娘に食べさせます。野菜とか魚とか。

私はいつも年末には一年を振り返つて、あふれそうになるくらいみなさんへの感謝の気持ちで一杯になります。お一人お一人にお返しでき出来ないことが悔しいのですが、来年もお寺を居心地のよいきれいな場所にすることを考え、みなさんの心の平和と安らぎをお祈りすることで、少しでもお返ししたいと思っています。

本当にお世話になりました。そして来年もどうぞよろしくお願ひします。



行事案内



あ
・
と
・
が
・
き

お札配り 十二月に入つて住職と鎌田が手分けして来年のお札を届けしながら、県内檀信徒宅をお経に伺っています。予定を事前に連絡するのが難しいので、電話いただければご都合に合わせます。

大晦日 大晦日夜十時半から本堂で除夜法要。引き続き十一時四十分頃から除夜の鐘を撞きます。どなたでも先着順に番号の書いた袋を受け取り、それから撞いてもらいますが、この袋には境内で採れた縁起のいい銀杏の実が入っています。今年は豊作でしたからお楽しみに。古いお札や仏具を燃やす「お焚き上げ」もありますので、お持ちください。

元旦、年始参り 元旦と二日の朝九時から午後四時まで、ご年始の受付をしています。新年は本堂のお参りから始めましょう。

年回忌のお知らせ 平成十八年に年回忌のあるお宅には直接お知らせしています。届かないお宅は法事が当たっていないことです。

星祭祈願 一年間の室内安全、健康、幸運を祈願する『星祭』は一軒二千円です。新規希望の方のみ、家族全員の氏名、性別、生年を書いてお申し込みください。元旦の法要で祈願のうえ、家族ごとにひとりひとりの星を記入したお札を差し上げています。

位牌堂への位牌安置と命日のご回向 本堂脇の位牌堂に申し込まれたお宅の位牌を安置して、毎朝の法要でその日が月命日に当たる精霊のご回向をしています。費用は年間一万二千円。継続の方は十八年度分を三月までにお願いします。この三十年間分（三十万円）からを永代供養料としています。

お願いやらご報告、ご案内と中身の多い号になりました。ちょっと重かつたでしょうか。秋以降の妙光寺の姿です。ゆっくり読んでいただければ幸いです。

アメリカ報告はどう書いたらいいものか悩みました。ロスアンゼルスでパレードに遭遇し、七十才前後のチアガールの集団に感動した、なんて話は別の機会にしてとりあえず経過だけお伝えすることにしました。

本当に唖然とするニュースばかりの毎日です。心穏やかでいられない年の瀬ですが、来年がせめて不安のない年になることを祈るばかりです。良いお年をお迎えください。

小川

